

※一部非公開

令和二年度入学試験問題 (私費外国人留学生入試)

小論文

人文社会学部 琉球アジア文化学科

注意事項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は、必ず解答用紙に記入すること。
- 三、解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないように注意すること。
- 四、解答時間は、一二〇分である。
- 五、横書き、鉛筆(シャープペンシルを含む)書きにすること。

非公開

問題

次の文章を読んで、あとの問題に答えなさい。

非公開

非公開

非公開

(小高 賢, 『老いの歌―新しく生きる時間へ』, 岩波書店, 二〇二一年, 一―九頁, 抜粋・一部改変)

問一、傍線部「自分たちに到来する・している（古い）を、見つめなおすきっかけになるはずだ。しかも、切り捨てられる時間や存在ではない豊かな可能性もそこにある」について、筆者の論旨に沿って、あなたの考えを六〇〇字以内で説明しなさい。

令和二年度入学試験問題（私費外国人留学生入試）

小論文

人文社会学部 琉球アジア文化学科

出題の意図

琉球アジア文化学科は、琉球・沖縄および日本・アジアの諸地域の言語・文学・歴史・民俗への理解を深めることを目指している。したがって、本学科の入学希望者には、これら諸地域の文化への深い関心はもとより、そうした文化を生み出す社会の仕組みへの持続的な探究心が要求される。問題文は、二〇世紀後半から浮上してきた未知の広大な領野「老い」の発見から、「老いの文学」（短歌）を通して、自分たちに到来する・到来している老いが無限に広がる新しい場所であることを述べた文章である。本出題の意図は、老い一般では決して語ることができない、一人ひとりのさまざまな「老い」を伝える表現手段としての短歌について述べると同時に、文学の新たな可能性について述べた文章を正確に読み取り、論旨を的確に把握できるかを問うことにある。本文の内容をふまえた上で、本学科の研究分野である歴史研究・文学研究・言語研究・民俗研究の分野において、超高齢化社会に向かう現在、これまで時代や社会が忌避し、排除・隔離してきた「老い」をどのように捉えなおし、一人ひとりの人間がどのような態度で受け入れることができるかについて論述させることにより、文章に対する受験生の理解力、および独自の発展的な思考力や論理構成力、言語表現力などをみることにある。